みんなのひろば

▲昼に号砲が打ち上げられ、市内の夏祭りのトップを切って始まる有楽町八雲神社の「天王様」。夕焼けに向かって神輿が走ります。
7月18日(土)／有楽町八雲神社
（撮影：市民カメラマン・伊藤麿紀子）

▲大太鼓の音が夜空に響き、地域の大勢の皆さんが輪になった菩提樹自治会「納涼盆踊り大会」。
7月18日(土)／菩提樹子ども広場
（撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎）

◀あかりの行列や100本の地口行灯が、幻想的な夏の夜を演出した「野老澤行灯廊火」。▼プロペ通りでは仮装のパフォーマンスも。
7月18日(土)／所沢駅西口から銀座中央広場
（撮影：市民カメラマン・中村　仁）

▲白装束の若者たちが神輿を担ぎ、町内をカいっぱい練り歩いた、林神社の「天王様」。
7月25日(土)／林神社
（撮影：市民カメラマン・八木豪彦）

誰でもエッセイ

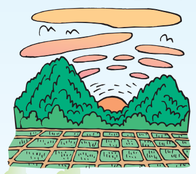
◆テーマ「田舎」

和む心

こぶし町　門脇　富雄

田舎（故郷）それはこの世に生を受け生まれ育った私の聖地である。なによりも生家がありそして先祖代々の墓がある。春夏秋冬四季折々が調和した自然の大地に恵まれて私は少年期を過ごした。今の生活様式に昔の面影はないが、山川草木、風光明美だけは変わることなく心が温まる。

ある日、遠方から訪ねてきた知人が「私には、このように風光明美で心が癒やされる田舎はない」と、うらやましがられた。50数年前に上京し、帰省には50時間かかったが里帰りは何よりも楽しみであった。兄弟、親類縁者にも会いたい、眠っている先祖にも会いたい、そして何よりも田舎の自然を心ゆくまで堪能したい。



楽しかった信州の思い出

上安松　若林　悦子

田舎を持たない娘家族4人と私たち夫婦を、信州に住む弟夫婦が夏休みに招待してくれた。甥や姪とその子どもたちも来て総勢20人ぐらいが集まった。孫たちはすぐに打ち解け、神社の境内でセミの羽化を観察した。成虫になるまでかなりの時間を要するので飽きてしまう子、真剣に見ている子、とさまざまだったが、羽化の様子にはみな感動していた。

翌日は川原でバーベキュウ。採りたて野菜・川魚・肉をほおばり、夜は孫たちは大喜び。夜は盆踊りに出かけ、娘や孫娘と親子三代で踊りの輪に入れさせていただき、とても楽しかった。

田舎の皆さんありがとう。

懐かしいレトロな田舎道

日比田　見沢　智子

東所沢から、娘が通う将棋クラブがある文化会館（宮本町）まで自転車で行くことになった。ふだんは車で通る国道と平行した東川沿いの細い道を、川を眺めながらペダルをこいだ。真夏の日ざしは強いかと思いきや、川原の桜が木陰を作り、川のせせらぎでとても涼しい。

一人がやっと通れるぐらいの苔むした小さな橋、しんとした弓道場と熊野神社、能面美術館の案内板…。表の大通りの喧騒とはかけ離れた夏の田舎の風景が広がっていた。有形文化財の旭橋を見て、懐かしい町並みの小道を進み、漬物屋さんのレトロな工場横を抜けると、古き良き時代に戻ったようだった。久々に車を離れて田舎を味わえたとても楽しい一日だった。

エコ・モビリティでいこう！

エコ・モビリティについて考えてみませんか？

自然を感じて、移動しましょう

初秋とはいえ、日中はまだまだ暑い日が続きます。日ざしが弱い早朝や夕方にウォーキングはいかがですか。ゆっくり移動することで、自然との新たな出会いや発見があるかもしれません。健康にもいいですよ。

◆正しい歩き方をチェック！

①視線は少し遠くへ②胸を張り背筋を伸ばす③肩の力を抜きリズムよく腕を振る④かかとから着地し、つま先で後に蹴りだす⑤腰の高さを一定に保つ⑥歩幅を広めに⑦リラックスした気分で

◆市内の散策を楽しむ

本号４ページに掲載の北野のお花畑の散策はいかがですか。特色ある市内６コースを紹介した所沢ウォーキングマップ（商工労政課で配布）や、市民の皆さんで作成した「わくわくお散歩マップ・所沢地区コース」（保健センター成人保健課で配布）もお勧めです。

歩くことで、車の移動では発見できない景色や出会いを楽しみましょう。

◆運動不足の解消に

運動不足や肥満の解消には「早歩き」などの有酸素運動が効果的です。有酸素運動は、筋力低下を防止するだけでなく、血管の老化を防ぎ脳卒中を予防します。

新たに「早歩き」を始める方は、体操・ストレッチ・散歩から少しずつ始め、１日20分を目安（60歳代）に早歩きを楽しみましょう。

問い合わせ　環境総務課☎2998-9133・FAX2998-9394

エコ・モビリティとは、環境にやさしい移動の仕方を意味する造語です。

みんなで止めよう温暖化　チーム・マイナス6%　所沢市は温暖化対策をすすめます

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています！

▶エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『初孫』▶文章は添削あり▶締め切りは**9月7日(月)必着**▶掲載者には記念品を進呈▶投稿写真・原稿は返却しません

◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-1-1所沢市役所広報課「みんなのひろば」係へ郵送またはEメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

歴史再発見　ところざわの文化財 37

所沢の土器いろいろ ～弥生式土器～

地中には、太古の先人たちの足跡が数多く埋蔵されています。発掘調査では、これら地中に眠っている土器や石器などを発掘・分析し当時の人々の暮らしを明らかにしています。中でも土器は多くの情報を提供してくれます。今回は弥生式土器を紹介しましょう。

今から約2，300年前ころ、米作りの技術が大陸から伝わり弥生時代が始まりました。米は栄養価が高く保存が出来る優良な食料です。このため狩猟・採集といった自然の恵みに頼っていた縄文時代と違い、自ら食糧を生産した弥生時代は人々の生活を一層安定させました。

所沢では、約1，900年前ころの弥生時代後期に稲作が普及し、柳瀬川の上流域で小規模な稲作が行われるようになりました。ただし、地形的に水田耕作に適した場所も規模も小さいため、縄文時代に比べ遺跡の数は非常に少なく、久米や三ヶ島、北野地区などに限定されています。

生活様式の変化に伴い、土器にも変化が見られました。弥生式土器は、縄文式土器と比べると、貯蔵用の壷や煮炊き用の甕など、用途によってその形態が分化されていきます。甕は熱を伝えやすくするため薄く簡素に作られ、壷は文様や彩色で美しく飾られていることが多く、縄文式土器の名残と考えられています。

問い合わせ　文化財保護課☎2998-9253・FAX2998-9128

弥生式土器　壷（左）と甕（右）

はつらつ野老っ子

独特のテンポによる話芸『講談』

講談師　神田　鯉風さん（中新井出身）

皆さん講談をご存じですか？　講談とは、釈台と呼ばれる小さな机の前に座り、張扇で釈台を「パパン」と叩いて調子を取りつつ、軍記物や武勇伝、人情物、政談など主に歴史にちなんだ読み物を興味深く聞かせる話芸です。江戸時代には講釈と呼ばれていました。

「パパン」さて今回は、所沢市出身（中新井小・美原中学校卒業）の講談師、神田鯉風師匠（本名：鮫島史明さん）をご紹介します。鯉風師匠は、大学在学中にバイクに乗って日本中をブラブラしている間に「大学を繰り上げ卒業せざるを得なくなり、この性根をたたき直すためには厳しい修行の世界が一番」と、平成２年７月に神田松鯉師匠の一番初めの弟子として入門しました。芸名『神田陽之助』で見習いとして初高座に上がり、翌年春に前座に昇進。初高座から３年後に二つ目に昇進し、平成15年秋の真打昇進と同時に『神田鯉風』を襲名しました。

鯉風師匠は、寄席での古典講談だけでなく、小・中学校等へ出前講座にも出かけて活躍しています。初めて講談を聞いた先生からは、「歴史の授業を受けているみたいだった。同じ人前で話をする者として、間の取り方などたいへん勉強になった」と言われたそうです。実は鯉風師匠「学校の先生になろうと思ったときがありまして、小学生のときから社会の授業は好きだったけど、どっちかと言うと歴史より地理の方が好きだった」と照れながら話してくれました。最近は、新作講談にも取り組んでいます。「手前、依頼があれば何でも講談にします。郷土史・周年行事講談や結婚式のなれそめ講談、交通安全講談等も作り、ネタはざっと150を超えます」と言うから驚きです。

鯉風師匠は寄席芸界に入り今年で20年目となりますが「まだまだはなたれ小僧同然の世界でございまして、やっとスタートラインに立てたかな？くらいの状況」と寄席芸界の厳しさを語ってくれました。

落語には話の終わりに落ちがあります。講談は一話読み切りではなく連続のお話。「パパン」この続きは、10月３日(土)午後１時30分から並木公民館で聞くことができます。チケットは、９月１日(火)午前８時30分から発売です。詳細は並木公民館（☎2998-5911）へお問い合わせを！

高座での鯉風師匠